

平成 19 年 5 月 14 日

南海電気鉄道株式会社

『南海ターミナルビル』等の再生計画に着手します

南海電鉄と南海グループの南海都市創造では、4月19日にグランドオープンしたなんばパークスに続く地域の活性化策として、「南海難波駅」を中心に、高島屋大阪店等が入居する「南海ビル」や南海電鉄本社の「南海会館ビル」、「なんばCITY」、「スイスホテル南海大阪」等から構成される『南海ターミナルビル』等なんばターミナルの再生計画に着手します。

なお、南海ターミナルビルが所在する区域は国が追加指定した「都市再生緊急整備地域」に該当しており、当計画を同地域の地域整備方針に則して、大阪市と協議しながら進めてまいります。

1．計画の概要

- (1) 南海ビル美装化改修工事
- (2) ウェルカムロビー（仮称）新設工事～ロケット広場改修工事～
- (3) 高島屋大阪店新本館計画関連改修工事
- (4) 南海会館ビル及びホテル南海なんば再生計画

2．計画の基本的な方向性

- (1) 新しいなんばターミナルの創造に向けた施設更新、機能向上
- (2) 交通結節拠点にふさわしい機能及び歩行者空間・動線の整備
- (3) 建物の安全性（耐震性能・防災性能等）の向上
- (4) 当社グループ施設の収益拡大、利便性向上のためのリニューアル

3．計画の詳細

南海会館ビル及びホテル南海なんば再生計画については現在策定中です。
工事の内容や工事費用、投資効果等の詳細は内容が決定次第お知らせします。
先行して実施する工事についての詳細は別紙のとおりです。

(別紙)『南海ターミナルビル』等の再生計画について

1. 『南海ターミナルビル』等の再生計画の策定に至った経緯

南海電鉄を核とする南海グループにとって、「難波」は事業発祥の地であり、最大の経営拠点です。そして、関西国際空港への玄関口として世界につながる「難波」の地を一層魅力ある都市空間に発展させることは、南海グループの使命でもあります。

その使命を果たすべく、なんばCITY、スイスホテル南海大阪の整備をはじめ、4月19日には旧大阪球場跡地に待望の「なんばパークス」をグランドオープンするなど、難波地区の都市機能の強化に取り組んでまいりました。

しかしながら、南海ビル、南海会館ビルについては老朽化が進むとともに、ロケット広場についても、エリア間競争のさらなる激化が予想される中で、機能更新や魅力向上に向けた対策が急務となっております。

このような状況にあって、株式会社高島屋が推進する大阪店新本館計画との連携、相乗も勘案して、「南海ターミナルビル」等の再生計画への着手を決断し、トリガー事業として、南海ビルの外壁やロケット広場といった難波を代表する施設の改修を、平成21年秋竣工をめざして実施し、難波地区のさらなる魅力向上をめざすことといたした次第です。

2. 先行して実施する工事の内容

(1) 南海ビル美装化改修工事

南海ビルは、昭和7年の竣工以降、大阪ミナミ・なんばのランドマークとして愛されてきました。そして今回「伝統と先進」を基本的な考え方として、竣工当時の装飾物の復活や外壁の美装化などを実施することで、現在の風格ある建物外壁デザインを保存・再生し、良好な都市景観を形成します。

また、1階及び地下1階の公共部分についても美装化改修を実施します。

(2) ウェルカムロビー(仮称)新設工事～ロケット広場改修工事～

昭和53年の竣工からミナミの待ち合わせスポットとして親しまれてきたロケット広場について、シンボルである「ロケット」を撤去し、関西国際空港と直結する大阪の玄関口にふさわしい「ウェルカムロビー(仮称)」として整備すべく空間の改修を行います。

ロケットと階段上部の屋根などの既存施設を撤去して、新たに高さ30m、広さ1,200㎡の室内吹き抜け空間を創出するとともに、大阪・なんばを訪れる人々の交流結節拠点・回遊空間としての機能強化と魅力向上を図ります。

そのほか、公共部分や店舗区画などの整備工事も実施します。

(3) 高島屋大阪店新本館計画関連改修工事

高島屋大阪店新本館計画に対応して、南海ターミナルビル内の歩行者通路整備、耐震性能や防災性能向上に向けた改修工事等をあわせて実施します。

(4) 総事業費 約150億円 (入居テナントの工事負担金を含む)

(5) 施工期間 平成 19 年 8 月から 21 年秋 (予定)



南海ビル美装化改修工事 (完成予想)
- 「 伝統と先進 」 をテーマに保存・再生を図ります -



ウェルカムロビー (仮称) 新設工事 ~ ロケット広場改修工事 ~ (完成予想)
- ロケットを撤去し、「ウェルカムロビー (仮称)」へ改修します -